



ミュンヘン便り ～春を運んでくるOstern～

日本では桜が咲いているところでしょうか。今年の日本の冬は寒かったようですね。ミュンヘンも、今年の1月には日中の最高気温が氷点下10度、最低気温は氷点下20度近くなる日が2週間ほど続きました。ミュンヘンを流れるイザール川もついに凍ったのです。イザール川は、さしずめ京都の加茂川、パリのセーヌ川のような存在でしょうか。ついでに言えば、パリ、セーヌ川の中洲にあるノートルダム寺院とその向かいに建つルーブル美術館とに相当するのが、イザール川の中洲にあるドイツ博物館とその向かいに建つEPOでしょうか。こんな対比をすると、お国柄の違いが際立つような気がします。そのイザール川の両端10～15mはカチカチに凍りつき、写真のようにその上に立てるほどの厚み、おそらく25～30cmの氷で覆われました。ミュンヘンでもこれほど厳しい寒さは珍しく、市民は氷のオブジェを作ったり、そりやクロスカントリーを楽しむなど、思い思いにアウトドアライフを楽しんでいました。彼らは私よりも皮膚が低温仕様らしく、氷点下10度の中で数時間を楽しく過ごせるのですが、私は30分以上立つとご覧のように顔さえも覆わないと耐え



られず、遺伝子の差を改めて感じました。

今年は厳冬かと思ったら、2週間ほどの厳しい寒さの後、どんどん右肩上がりに暖かくなり、この原稿を書いている3月下旬の今すでに春爛漫の一步手前で、4月第一週末のイースターのころには春が一斉に噴出しそうです。イースターの時期は年によってかなり違い、去年は4月の後半、一昨年3月末でした。不思議なことに、年によってこれほど時期が違うにも関わらず、ちょうどイースターのころに春爛漫となるのです。イザール川沿いには、EPOと向かい合って、気の早いクロッカス(?)がすでに満開です(写真)。

イースターが近づくと、絵柄付き卵、ウサギなどを使ったイースターの飾りで街中のショーウィンドウが一杯になり、花屋さんにはチューリップが山盛りになり、春の予感が漂います。イースターのシンボルは復活を象徴する卵、そしてウサギ。ドイツ語でOsterhaseと呼ばれるイースターのウサギは、多産のため、春のシンボルです。写真のウサギはチョコレート屋さんのショーウィンドウ。ウサギが抱えている卵はチョコレートです。



春になると、同僚たちはよくハイキングに出かけます。私もちょくちょくハイキングを楽しみます。ミュンヘンから車または電車で30分も行けば、そこはもうヨーロッパの一部。だからと言って、アイゼンやザイル、ピッケルなどは不要です。2本の足だけで普通にぼくぼくと景色を眺めながら、老若男女誰でもが体力に応じたコースを楽しむことができます。そんなコースを歩いていると、高山植物の可憐な花々はもちろん、ドイツならではの山菜やきのこを見かけることがあります。ドイツの春の山菜が、写真のBierlauch。直訳するとビールねぎ。森の下草として山に自生しています。ニンニクに似た匂いを持ち、このBierlauchが生えている辺りを歩くと辺り一面にその独特の匂いがします。これをスープに使ったBierlauchスープは、春の山菜の味。大変おいしいです。ハイキングコースの所々に立っている山小屋で、新鮮なBierlauchを使ったスープを楽しむことができます。日本の山菜の天ぷらのようなものですね。スーパーにはBierlauchのスープを手軽に作るためのBierlauchペーストも売られています。このBierlauch、よほど輸送に弱いのか、スーパーで生のBierlauchを見たことがありません。ドイツの友人の中には、Bierlauchのスープを食べたことはあってもBierlauch自体は見たことがないという人もいて、私がBierlauchを見たといったらびっくりされました。おそらく、彼らは見てもそれと気づいていないので



はないかと思います。

ドイツの春の味としてはさらに、ホワイトアスパラガスがあります。これは日本ではさしずめ新筍でしょうか。独特の苦味と風味とを楽しみ、ホワイトアスパラガスをかみしめながら、皆サマーシーズンの到来を実感するのです。

ところで、イースターは、クリスマスと並び、家族で一緒に過ごす重要休日です。イースターとクリスマスは、日本のお盆とお正月に相当するでしょう。しかも、イースター休みのほうが、金曜日から月曜日まで丸々4日間と、クリスマス休みよりも長いのです。EPO、ドイツ特許庁も当然閉庁日ですし、ドイツの学校はイースターの前後で2週間の休みに入り、国全体がうきうきとした春休みモードになり、特許庁からは審査官が消え、事務所からは弁理士が消えます。ドイツ代理人に連絡を取りたい皆様、イースターは要注意ですよ。

筆者紹介

稲積 朋子 (いなづみ ともこ)

平成6年弁理士試験合格。現在、新樹グローバル・アイビー特許業務法人及びGIP Europe Corp.所属。
1997年、新樹グローバル・アイビー特許業務法人入所し、主に国内外の出願及び権利化業務を担当。2007年11月より、ミュンヘンの現地提携事務所に駐在。2009年1月、GIP Europe (GIPグループミュンヘンオフィス) 設立。日本企業からのヨーロッパ出願・中間処理・異議申立・侵害品ウォッチングや、ヨーロッパ企業からの日本出願・中間処理業務を行う。
趣味は、山登り、ぼーっとすること、寝ること、健康づくりに励むこと。